

教科	国語	科目名	現代の国語	単位数	2	開講対象 年次コース	1年次 必履修
使用教科書		精選現代の国語(東京書籍)					
副教材等		よむナビ現代文1、大学入試TOP2000、高校生必修語彙ノート、評論速読トレーニング700					
備考(履修条件等)		なし					

1 科目の学習到達目標

実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 学習の評価(評価の観点及び評価方法)

(1) 評価の観点

観点	趣旨
①知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。
②思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。
③主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

(2) 評価の方法(以下観点①～③は「(1)評価の観点」と対応する。)

観点	学習到達度の確認方法	具体的取組および重要度				
		授業	課題提出	定期考査、 小テスト	国チェック	協働学習
①知識・技能	定期考査、国チェック、小テスト	○		◎	◎	
②思考・判断・表現	授業中の課題、定期考査、小テスト	○	○	◎		◎
③主体的に学習に取り組む態度	授業に積極的に取り組むことができたか、課題への取り組み具合、国チェック	◎	◎		○	○

以上を総合的に判断して決定します。(◎はより重視される観点)

3 担当者から

スマートフォンとネットの普及により、コミュニケーションはSNSでの短文のみのやり取りが常態化しています。「伝わればどうだっていいでしょ」と思う人もいるかも知れませんが、間違った情報を伝えるわけにはいきませんし、箇条書きでたくさんの情報を送られても相手は困ります。多くの情報を正確に、しかも端的に伝えるためには、「読み解く力」が必要になってきます。日本語を使っているからといって、勝手に力が身に付くわけではありません。現代の国語では、評論文以外にも、条例文、企画書、図表などの実社会で使われている文章の読解を行います。様々な文章を通して、情報をうまくインプット(読み解く力)し、正確にアウトプット(伝える力)できるよう、学んでいきましょう。

4 年間指導計画

月	単元	授業 時数	領域	項目・学習内容
4	文章の対比を読み取る	6	読む	水の東西
5	筆者の主張に対する意見文を書く	7	書く	遊びが生じる場所
6	言葉の働きを読み取る	4	読む	言葉は「ものの名前」ではない
7	読書の在り方について考え方を深める	5	書く	小説との対話、対話としての小説
8	比喩、定義、換言を理解する	8	書く	時間と自由の関係について
9	効果的な表現を考える	8	話す 聞く	広く伝える言葉
10	根拠・図を読み取る	5	読む	人工知能はなぜ椅子に座れないのか
11	読み取った内容の賛否を述べる	5	読む	共鳴し引き出される力
12	具体的な事例を示しながら意見を述べる	5	書く	まちの豊かさとは何か
1	目的や状況に応じて話し合う	7	話す 聞く	僕たちの「センス・オブ・ワンダー」
2	問いを作り、意見をまとめる	5	書く	新聞記事
3	文章と資料を組み合わせる 読む	5	話す 聞く	温室効果ガスと気候変動
	計	70		
備考	話すこと聞くこと	20		
	書くこと	35		
	読むこと	15		

教科	国語	科目名	言語文化	単位数	2	開講対象 年次コース	1年次 必履修
使用教科書		精選言語文化(東京書籍)					
副教材等		よむナビ古典1、重要古文単語315、精説漢文、明快古典文法、国語便覧、古文ノート用言編、古文ノート助動詞編					
備考(履修条件等)							

1 科目の学習到達目標

生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとする。また、論理的思考力や深く共感したり豊かな想像力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。さらに、言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会参画への態度を養う。

2 学習の評価(評価の観点及び評価方法)

(1) 評価の観点

観点	趣旨
①知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。
②思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。
③主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

(2) 評価の方法(以下観点①～③は「(1)評価の観点」と対応する。)

観点	学習到達度の確認方法	具体的取組および重要度				
		授業	課題提出	定期考査	古典チェック	協働学習
①知識・技能	定期考査・古典チェック・小テスト	○		◎	◎	
②思考・判断・表現	定期考査・授業中の課題・小テスト	○	○	◎		◎
③主体的に学習に取り組む態度	授業に積極的に取り組むことができたか、課題への取り組み具合、古典チェック	◎	◎		○	○

以上を総合的に判断して決定します。(◎はより重視される観点)

3 担当者から

「不易流行」という言葉を知っているでしょうか。「不易」とは「どんなに社会が変化しようとも、時代を超えて変わらない価値あるもの」であり、「流行」とは「社会の変化に関心をもち、時代の変化とともに変えていく必要があるもの」と理解することができます。皆さんが高校1年次で学習する「言語文化」は「不易」と「流行」を学び取る科目です。古文・漢文を含む「古典領域」の教材は長く読み継がれてきた理由があります。その普遍の価値を学習の中で享受してもらいたいと考えています。また、「小説」の教材は普遍の価値を含むとともに、読者の皆さんに深い洞察力と鋭い感性を求めてきます。是非、各小説の世界観に浸ることで多くの疑似体験をし、これからの変化に慌てることのない精神における「胆力」を鍛えてほしいと思います。

4 年間指導計画

月	単元	授業 時数	領域	項目・学習内容
4	古典特有の表現を理解しよう	11	古典 読む	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する。 ・「児のそら寝」を読み、ものの感じ方を捉え、内容を解釈する。
5・6	古典の世界に親しもう	10	古典 読む	<ul style="list-style-type: none"> ・平安時代の婚姻の文化的背景を学習する。 ・文語のきまりや古典特有の表現などを学習する。 ・『伊勢物語』が成立した背景を踏まえ、内容の解釈を深める。 ・「筒井筒」を読み、内容を解釈する。
7	「羅生門」を原作と読み比べて、作品の特徴について考えよう	9	近代 読む	<ul style="list-style-type: none"> ・常用漢字の読み・書きに慣れる。 ・古典の言葉と現代の言葉とのつながりを学ぶ。 ・「羅生門」を読み、内容や構成、展開などを捉えるとともにその特色を評価する。 ・読み比べを通じて自分のものの見方、考え方などを深める。
8	故事成語として今まで親しまれている言葉を集めよう	5	古典 読む	<ul style="list-style-type: none"> ・訓読のきまり、古典特有の表現などについて学ぶ。 ・歴史的な文体の変化について理解を深める。 ・「矛盾」や「狐借虎威」を読み、内容を解釈する。 ・故事成語を集めることで、その文化的背景について理解を深める。 ・故事成語レポートを交流して、表現の仕方を評価する。
9	優れた文章を紹介する文章を書こう	3	書く	<ul style="list-style-type: none"> ・「百人一首」を通して、文章の意味は文脈の中で形成されることを理解する。 ・自分の思いが効果的に伝わるように文章の紹介文を書く。 ・推敲を通じて構成、展開、描写、語句など表現の仕方を工夫する。 ・読書の意義と効用について理解を深める。
10	随筆文学の面白さを発見しよう	11	古典 読む	<ul style="list-style-type: none"> ・文語のきまりや古典特有の表現などを学習する。 ・「丹波に出雲といふ所あり」を読み、ものの考え方を深め、内容を解釈する。
11	優れた和歌に触れよう	3	古典 読む	<ul style="list-style-type: none"> ・和歌の修辞について学ぶ。 ・「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」の成立背景を踏まえて内容の解釈を深める。
12・1	物語を読み、そこに描かれたさまざまな心情や人間模様を読み取ろう	10	近代 読む	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承などの働きがあることを学ぶ。 ・常用漢字の読み・書きに慣れる。 ・「城の崎にて」を読み、内容や構成などを捉える。 ・三人称小説と読み比べて、自分のものの見方、考え方などを深める。
2	さまざまなジャンルの漢文を読み、漢文の世界の魅力を味わおう	5	古典 読む	<ul style="list-style-type: none"> ・「管鮑之交」や「臥薪嘗胆」を読み、他の作品との関係を踏まえ、内容の解釈を深める。 ・日本の文化と中国の文化との関係について理解を深める。
3	自分の体験を素材にした短歌を作ろう	3	書く	<ul style="list-style-type: none"> ・短歌・俳句の特徴的な表現の技法を学ぶ。 ・テーマをもとに短歌を創作し、交流の後、推敲する。
		計	70	
備考	読むこと古典 (45) 読むこと近代以降 (15) 書くこと (6)			

教科	国語	科目名	論理国語	単位数	2	開講対象 年次コース	2年次
使用教科書		論理国語(数研出版)					
副教材等		よむナビ現代2.5、大学入試TOP2000、高校生必修語彙ノート、速読レッスン					
備考(履修条件等)		なし					

1 科目の学習到達目標

実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 学習の評価(評価の観点及び評価方法)

(1) 評価の観点

観点	趣旨
①知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。
②思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力や、創造的に考える力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。
③主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

(2) 評価の方法(以下観点①～③は「(1)評価の観点」と対応する。)

観点	学習到達度の確認方法	具体的取組および重要度				
		授業	課題提出	考査 (年3回)	国チェック	協働学習
①知識・技能	考査、国チェック	○		◎	◎	
②思考・判断・表現	授業中の課題、考査	○	○	◎		◎
③主体的に学習に取り組む態度	授業に積極的に取り組むことができたか、課題への取り組み具合	○	◎		◎	○

以上を総合的に判断して決定します。(◎はより重視される観点)

3 担当者から

グローバル化や情報化が進むこれからの社会においては、立場や考えの異なる他者との的確な意思疎通や共通理解、課題を発見しその解決を導いていくための創造性や合理性を重視した他者との協働などがより重要になると考えられます。このような社会にあっては、示された情報の信頼性や妥当性を見極めながら、他者の主張や考えを的確に理解するとともに、自らの主張や考えについても、相手に受け入れられるよう、論拠に基づいて効果的に構築する資質・能力の育成が必要です。そこで「論理国語」を通じて、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関われる存在になりましょう。

4 年間指導計画

月	単元	授業 時数	領域	項目・学習内容
4	逆説的表現を読み取る	2 4	読む	『弱いつながり』 『手の変幻』
5	逆説的表現を用いて書く	7	書く	『胆力について』
6	具体と抽象を読み取る	5	読む	「内的成長」社会へ
7	具体と抽象を用いて書く	3	書く	『「具体」から「抽象」へ』
8	言葉と創造について読み取る Ⅰ	4	読む	『添削の思想』
9	言葉と創造について読み取る Ⅱ	4 5	読む	『国境を越える言葉』 『未来世代への責任』
10	近代と現代の視点について読み取る	7	読む	『〈近代〉の入口と出口の間』
11	近代と現代の視点をテーマに書く	8	書く	『科学・技術の歴史の中での社会』
12	情報と社会について読み取る Ⅰ	8	読む	『白紙』
1	情報と社会について読み取る Ⅱ	6	読む	『擬似群衆の時代』
2	情報と社会をテーマに書く	4	書く	『消費されるスポーツ』
3	言葉と思考について書く	3	書く	『日本語は非論理的か』
	70			
備考	書くこと (25) 読むこと (45)			

教科	国語	科目名	論理国語	単位数	2	開講対象 年次コース	3年次
使用教科書		『論理国語』(数研出版)					
副教材等		『よむナビ現代3』『大学入試TOP2000』『高校生必修語彙ノート』					
備考(履修条件等)		なし					

1 科目の学習到達目標

実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。また、言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 学習の評価(評価の観点及び評価方法)

(1) 評価の観点

観点	趣旨
①知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。
②思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力や、創造的に考える力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。
③主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

(2) 評価の方法(以下観点①～③は「(1)評価の観点」と対応する。)

観点	学習到達度の確認方法	具体的取組および重要度				
		授業	課題提出	定期考査 (年2回)	国チェック	協働学習
①知識・技能	定期考査、国チェック	○		◎	◎	
②思考・判断・表現	授業中の課題、定期考査	○	○	◎		◎
③主体的に学習に取り組む態度	授業に積極的に取り組むことができたか、課題への取り組み具合	◎	◎		◎	○

以上を総合的に判断して決定します。(◎はより重視される観点)

3 担当者から

国際学習到達度調査(PISA調査)により、日本人の「読解力」が低下していることがわかりました。本や新聞など、普段から読書をしている子供たちは読解力問題の平均点が高かったことから、全体的な読書量の減少が影響しているようです。スマートフォンとネットの普及により、コミュニケーションは、SNSでの短文のみのやり取りが日常となってしまっています。読書離れが進み、より長文と慣れ親しむ機会が減ってしまっているのが現状です。読書は語彙力や読解力が身につくだけでなく、筆者が何を思って作品を書いたのかを文章から想像して読み取る力がつきます。「論理国語」を通じて、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関われる存在になりましょう。

4 年間指導計画

月	単元	授業 時数	領域	項目・学習内容
4	文化の認識 （「いき」の美学）	5	読む	・筆者が述べる「二重構造」「いき」の内容を理解する。 ・日本人の美意識について考える。
5	社会の枠組み （人はなぜ働かなくてはならないのか）	9	書く	・労働を「アイデンティティを承認されるための必須条件」とする筆者の主張を具体的に理解する。 ・「労働」についての自分の考えを根拠とともに論述する。
6	近代と現代の視点 （未来世代への責任）	6	読む	・環境問題について筆者の意見の論理をとらえる。 ・「未来世代への責任」という題で自分の考えを書く。
7	言葉と思考 （日本語は非論理的か）	8	書く	・筆者が言葉の使い方について「論理的」「非論理的」と表現する内容を理解する。 ・筆者が提示する問題点を踏まえつつ、具体例とともに自分の意見を論述する。
8				
9	思想の深化 （顔の所有）	6	読む	・論の展開をふまえ、逆説的な表現の内容を説明したり、筆者の主張の根拠をまとめたりする。 ・引用という表現技法の働きを引用以外の文章との関連性からとらえる。
10	言葉と創造 （国境を越える言葉）	5	読む	・言葉の性質についての筆者の考えを読み取る。 ・外国の言葉や表現を選び、それが表す概念とともに紹介する。
11	情報と知性 （人工知能はなぜ椅子に座れないのか）	7	読む	・筆者の主張を踏まえて、「弱い人工知能」とは何か考察する。 ・「『生命』の発展にとって必要な技術」について説明する。
12	環境と人間 （意志と選択）	6	読む	・「意志」と「選択」についての筆者の問題提起と主張をとらえる。 ・意志と選択を混同している例を具体的に考える。
1	文章の背景 （安楽への全体主義）	8	書く	・人々の精神状態を「安楽への隷属」と表現する筆者の意図を読み取る。 ・筆者の考えを踏まえ、現代社会についての自分の考えを具体例とともに論述する。
2				
3		60		
備考	書くこと（25） 読むこと（35）			

教科	国語	科目名	古典探究	単位数	3	開講対象 年次コース	2年次
使用教科書		古典探究 古文編(数研出版)、古典探究 漢文編(数研出版)					
副教材等		よむナビ古典2、重要古文単語315、精説漢文、明快古典文法、速読レッスン古文、速読レッスン漢文、国語便覧					
備考(履修条件等)		なし					

1 科目の学習到達目標

生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとする。
論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 学習の評価(評価の観点及び評価方法)

(1) 評価の観点

観点	趣旨
①知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。
②思考・判断・表現	「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。
③主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで古典に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

(2) 評価の方法(以下観点①～③は「(1)評価の観点」と対応する。)

観点	学習到達度の確認方法	具体的取組および重要度				
		授業	課題提出	考査 (年3回)	古単語 チェック	協働学習
①知識・技能	考査、国チェック	○		◎	◎	
②思考・判断・表現	授業中の課題、考査	○	○	◎		◎
③主体的に学習に取り組む態度	授業に積極的に取り組むことができたか、課題への取り組み具合	○	◎		◎	○

以上を総合的に判断して決定します。(◎はより重視される観点)

3 担当者から

古典は受験勉強のためだけに使うものではありません。人の気持ちや生きていく上での真実は古典の中に伝えられてきました。当時の文化や思想、社会状況、作品の背景から、現代や未来の問題を考え、先人達がどのように生きてきたのかを読み解き、人間の普遍性や多様性についてを古典文化を通して、学んでいきましょう。

4 年間指導計画

月	単元	授業 時数	領域	項目・学習内容
4	登場人物の心情を読み取り、自分の考えを深めよう	7	読む	『沙石集』『十訓抄』を読み、登場人物のあり方をどう評価するか話し合う。係助詞の用法を学び、古典文法について理解を深める。
5	文章の構成や展開を的確にとらえよう	13	読む	『世説新語』『華歆・王朗』を読み、構成や展開を的確にとらえるとともに、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深める。
6	和歌の修辞の特色について理解を深めよう	9	読む	修辞などの表現の特色について理解を深めるとともに和歌の解釈を自分の知見と結びつけ考えをまとめたレポートを作る。
6・7	古典の種類とその特徴について理解を深めよう	4	読む	「江南春」・「黄鶴楼」の書き下し文の音読を通じて、言葉の響きやリズムに慣れるとともに詩の形式などについて理解を深める。
8	先人のものの感じ方に触れ、古典に親しもう	8	読む	『源氏物語』『小柴垣のもと』を読み、古典の敬語について理解を深めるとともに先人のものの感じ方に触れ、古典に親しみをもち。
9	登場人物の心情をとらえ、自分のものの見方考えを広げてみよう	10	読む	『史記』『鴻門之会』を読み、内容を的確にとらえるとともに、語句の用法を理解する。
10	関連する古典作品を読み、内容の解釈を深めよう	9	読む	『大鏡』『南院の競射』と、『枕草子』に登場する人物の描かれ方を読み比べ、書き手の考えや目的をとらえる。
11	性善説と性悪説とを比較して考えたことをまとめよう	11	読む	『孟子』『性善』と『荀子』『性悪』を読み比べて、考えたことをレポートにまとめるとともに、読書の意義と効用について理解を深める。
12	当時の貴族階級にとっての和歌についての考え方を読み取り、自分の考えを深めよう	11	読む	『平家物語』『忠度の都落ち』を読み、登場人物の和歌に対する思いをとらえるとともに、自分のものの見方を深める。
1	古典から読み取れる君主のあるべき姿を説明しよう	7	読む	『韓非子』『侵官之害』を読み、多面的・多角的な視点から評価するとともに前置詞について理解を深める。
2	和歌を現代語訳し、その主題を考えよう	9	読む	『古今和歌集仮名序』・和歌を読み、現代語訳を考えるとともに、その主題を発表する。
3	複数の古典作品を読んで、文章の意味を考えよう	7	読む	『埤田録』『売油翁』を読むとともに、『莊子』の二つの話を読んで考えをまとめる。
	105			
備考				

教科	国語	科目名	古典探究	単位数	2	開講対象 年次コース	3年次
使用教科書		古典探究 古文編(数研出版)、古典探究 漢文編(数研出版)					
副教材等		よむナビ古典2.5、重要古文単語315、精説漢文、明快古典文法、国語便覧、速読レッスン古文、速読レッスン漢文					
備考(履修条件等)		なし					

1 科目の学習到達目標

生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深める。また、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。加えて、言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 学習の評価(評価の観点及び評価方法)

(1) 評価の観点

観点	趣旨
①知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。
②思考・判断・表現	「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。
③主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで古典に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

(2) 評価の方法(以下観点①～③は「(1)評価の観点」と対応する。)

観点	学習到達度の確認方法	具体的取組および重要度				
		授業	課題提出	定期考査	古単語 チェック	協働学習
①知識・技能	定期考査、国チェック	○		◎	◎	
②思考・判断・表現	授業中の課題、定期考査	○	○	◎		◎
③主体的に学習に取り組む態度	授業に積極的に取り組むことができたか、課題への取り組み具合	○	◎		◎	○

以上を総合的に判断して決定します。(◎はより重視される観点)

3 担当者から

板書を書いて覚える「受け身の学習」では、いつまでたっても古典を自力で読解する力はずりません。最も大事なものは、「自ら考え」「自らわからないことは調べ」「間違ったことを正して理解していく」主体的な学習です。これまでに培った力で、本文の品詞分解や、現代語訳を予習で行うことが授業に参加する前提となります。授業では予習の正確さを確かめる場として使い、訂正箇所を正して理解することで、自らの力に更なる磨きをかけます。習慣化できているはずの「予習→授業→復習」のサイクルで、古文では「単語の確認・助動詞の識別・敬語の識別・心情理解」、漢文では「重要漢字・句形の把握・現代語訳・心情理解」の確認を、前半は行います。後期中間考査以降は数多くの問題を演習していきます。

4 年間指導計画

月	単元	授業 時数	領域	項目・学習内容
4	物語	4	読む	源氏物語 (光源氏誕生、藤壺の入内、車争ひ)
5	物語	8	読む	源氏物語 (須磨、明石の姫君入内、紫の上の苦悩)
6	逸話	8	読む	呂氏春秋(知音) 後漢書(梁上君子)
7	歴史物語	5	読む	大鏡(南院の競射)
8	思想	4	読む	韓非子(侵官之害)
9	軍記物語	8	読む	平家物語(忠度の都落ち)
10	軍記物語	4	読む	平家物語(壇ノ浦)
11	史伝	6	読む	史記(刎頸の交はり)
12	小説	4	読む	搜神記(売鬼)
1	総合演習	9	読む	多様な文章への対応 大学入試共通テスト対策
2				
3		60		
備考				

教科	国語	科目名	発展現代文 発展古典	単位数	2	開講対象 年次コース	3年次 文系 選択
使用教科書							
副教材等		新しい共通テスト国語対策問題集 現代文編、新しい共通テスト国語対策問題集 古典編					
備考(履修条件等)		発展現代文・発展古典の両方を履修すること。					

1 科目の学習到達目標

現代文、古文分野の様々な文章を読み、読解力を高めるとともに、問題演習を通して、問題の解き方を学ぶ。また、問題を解く上で必要な現代の社会や文化、思想に関する知識や古典常識についても学習し、国語に関する理解を深める。

2 学習の評価(評価の観点及び評価方法)

(1) 評価の観点

観点	趣旨
①知識・技能	語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、自分の表現や推敲に役立てることができたか。古典に用いられている語句の意味、用法および文の構造を理解することができる。
②思考・判断・表現	文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえ、その論理性を評価することができたか。文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わうことができる。
③主体的に学習に取り組む態度	思考力や想像力を伸張させるとともに、豊かな感性や情緒をはぐくみ、言葉の適切さや美しさについての感覚を磨き、表現の効果について適切に判断する力を向上しようとすることができる。

(2) 評価の方法(以下観点①～③は「(1)評価の観点」と対応する。)

観点	学習到達度の確認方法	具体的取組および重要度				
		授業	課題提出	考査	小テスト	協働学習
①知識・技能	考査、小テスト	○		◎	◎	
②思考・判断・表現	授業中の課題、考査	○	○	◎		◎
③主体的に学習に取り組む態度	授業や小テストに積極的に取り組むことができたか、課題への取り組み具合	○	◎		◎	○

以上を総合的に判断して決定します。(◎はより重視される観点)

3 担当者から

演習が中心の授業です。文章を正確に読み取るには語彙力を伸ばすことが重要であり、日々の積み重ねが定着につながります。漢字や古文単語についても繰り返し行うことで定着が期待できます。進路実現のためにも新聞を読んだり、本を読んだり、漢字を練習したりするなど、それぞれの不足している分野に取り組んでください。

4 年間指導計画

月	単元	授業 時数	領域	項目・学習内容
4	演習1 (評論・小説・古文・漢文)	8		多様な文章の題材に応じて筆者の主張と論理構成を的確に読み取り、文章の概要と詳細な読解に習熟している。古典の文章を読み、文章の構成や展開に即して内容を適切に捉えている。
5	演習2 (評論・小説・古文・漢文)	6		多様な文章の題材に応じて筆者の主張と論理構成を的確に読み取り、文章の概要と詳細な読解に習熟している。古典の文章を読み、文章の構成や展開に即して内容を適切に捉えている。
6	演習3 (評論・小説・古文・漢文)	6		多様な文章の題材に応じて筆者の主張と論理構成を的確に読み取り、文章の概要と詳細な読解に習熟している。古典の文章を読み、文章の構成や展開に即して内容を適切に捉えている。
7	演習4 (評論・小説・古文・漢文)	6		多様な文章の題材に応じて筆者の主張と論理構成を的確に読み取り、文章の概要と詳細な読解に習熟している。古典の文章を読み、文章の構成や展開に即して内容を適切に捉えている。
8	演習5 (評論・小説・古文・漢文)	6		多様な文章の題材に応じて筆者の主張と論理構成を的確に読み取り、文章の概要と詳細な読解に習熟している。古典の文章を読み、文章の構成や展開に即して内容を適切に捉えている。
9	演習6 (評論・小説・古文・漢文)	6		多様な文章の題材に応じて筆者の主張と論理構成を的確に読み取り、文章の概要と詳細な読解に習熟している。古典の文章を読み、文章の構成や展開に即して内容を適切に捉えている。
10	演習7 (評論・小説・古文・漢文)	6		多様な文章の題材に応じて筆者の主張と論理構成を的確に読み取り、文章の概要と詳細な読解に習熟している。古典の文章を読み、文章の構成や展開に即して内容を適切に捉えている。
11	演習8 (評論・小説・古文・漢文)	6		多様な文章の題材に応じて筆者の主張と論理構成を的確に読み取り、文章の概要と詳細な読解に習熟している。古典の文章を読み、文章の構成や展開に即して内容を適切に捉えている。
12	総合演習	5		多様な文章の題材に応じて筆者の主張と論理構成を的確に読み取り、文章の概要と詳細な読解に習熟している。古典の文章を読み、文章の構成や展開に即して内容を適切に捉えている。
1		5		多様な文章の題材に応じて筆者の主張と論理構成を的確に読み取り、文章の概要と詳細な読解に習熟している。古典の文章を読み、文章の構成や展開に即して内容を適切に捉えている。
		計 60		
備考				

教科	国語	科目名	文学研究	単位数	2	開講対象 年次コース	3年次 文系 選択
使用教科書							
副教材等		近現代文学コレクション(第一学習社)					
備考(履修条件等)		なし					

1 科目の学習到達目標

近現代文学の様々な文章を読み、読解力を高めるとともに、言葉を通じて積極的に他者と関わろうとする。また、生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。

2 学習の評価(評価の観点及び評価方法)

(1) 評価の観点

観点	趣旨
①知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。
②思考・判断・表現	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。
③主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

(2) 評価の方法(以下観点①～③は「(1)評価の観点」と対応する。)

観点	学習到達度の確認方法	具体的取組および重要度				
		授業	課題提出	単元テスト	小テスト	協働学習
①知識・技能	単元テスト	○		◎	◎	
②思考・判断・表現	授業中の課題、単元テスト	○		◎		◎
③主体的に学習に取り組む態度	授業に積極的に取り組むことができたか、課題への取り組み具合	○	◎		◎	○

以上を総合的に判断して決定します。(◎はより重視される観点)

3 担当者から

文学的文章を読み深めることは、日常生活において自分の考えを広げたり深めたりするとともに、豊かな想像力と人間性の育成に繋がります。文学研究の授業は、文学を読み深め、主体的に解釈する力を養えるような授業を展開していきます。受講する生徒は、日頃から、読書に親しんでいる生徒が理想的です。

4 年間指導計画

月	単元	授業 時数	領域	項目・学習内容
4	現代の小説 1 (デューク・バグダッドの靴 磨き)	8		作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。
5	近代の小説 2 (山月記)	6		言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解する。
6	近代の小説 3 (山月記)	6		文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉える。
7	近代の小説 4 (檸檬)	6		作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深める。
8	近代の小説 5 (こころ)	6		作者や描かれた登場人物の心情や人物像に興味をもち、内容への関心を深めようとしている
9	近代の小説 6 (こころ)	6		登場人物の行動や心情に対する理解を深め、自分の考えをまとめる。
10	現代の小説 7 (旅する本・富嶽百景)	6		作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。
11	近代の詩 8 (永訣の朝)	6		作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深める、
12	総合演習	5		
1		5		
		60		
備考				

教科	国語	科目名	国語教養	単位数	2	開講対象 年次コース	3年文系 選択
使用教科書							
副教材等		パスポート国語必携 国語常識の演習と確認 四訂版(桐原書店)					
備考(履修条件等)		なし					

1 科目の学習到達目標

様々な言葉に触れ、言語活動に参加することによって、我が国の言語文化に対する理解を深め、生涯にわたって読書に親しみ、国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。

2 学習の評価(評価の観点及び評価方法)

(1) 評価の観点

観点	趣旨
①知識・技能	論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる
②思考・判断・表現	文章に表れたものの見方、感じ方、考え方を読み取り、人間・社会・自然などについて考察することができる・文章特有の表現を味わったり、語句の用いられ方について理解を深めたりすることができる・近代以降の言語文化についての課題を設定し、様々な資料を読んで探究して、言語文化について理解を深めることができる
③主体的に学習に取り組む態度	思考力や想像力を伸張させるとともに、豊かな感性や情緒をはぐくみ、言葉の適切さや美しさについての感覚を磨き、表現の効果について適切に判断する力を向上しようとするすることができる・様々な言語文化に目を向け、それらについての関心を深めることができる

(2) 評価の方法(以下観点①～③は「(1)評価の観点」と対応する。)

観点	学習到達度の確認方法	具体的取組および重要度			
		授業	課題提出	定期考査 (年2回)	国チェック
①知識・技能	定期考査、国チェック	○		◎	◎
②思考・判断・表現	授業中の課題、考査問題	○	○	○	○
③主体的に学習に取り組む態度	授業に積極的に取り組むことができたか、課題への取り組み具合	◎	◎		

以上を総合的に判断して決定します。(◎はより重視される観点)

3 担当者から

国語教養は、民間就職や公務員試験に向けた演習を多く取り入れた授業を展開します。前期は、9月から始まる試験に向けて、主に漢字やことわざ、四字熟語などを中心とした学習を行います。また、夏休み前には社会科と連携して租税教室を行い、「税に関する高校生の作文」コンクールに応募することで、社会人に向けての意識を高めていきます。後期は、敬語や短歌といった国語表現を中心とした授業を展開します。評価は、毎時間行う小テストや定期考査を重視します。

4 年間指導計画

月	単元	授業 時数	領域	項目・学習内容
4	演習問題を通して語彙力を高めよう①	6		漢字・ことわざ・四字熟語などを復習し、語彙力を高める。
5	演習問題を通して語彙力を高めよう②	6		漢字・ことわざ・四字熟語などを復習し、語彙力を高める。
6	演習問題を通して語彙力を高めよう③	7		漢字・ことわざ・四字熟語などを復習し、語彙力を高める。
7	自分の考えが的確に伝わるよう工夫して論述しよう	5		租税教室で聞き取った情報をもとに、「税の作文コンクール」に応募するための作文を書く。
8	演習問題を通して語彙力を高めよう⑤	8		漢字・ことわざ・四字熟語などの語彙を復習する。
9	身近な題材から川柳を創作し、表現力を高める	5		・川柳についての理解を深め、他者に情景が伝わるよう、表現を工夫しながら川柳を創作する。創作した作品はコンクールに出展する。
10	登場人物の心情の変化を捉えよう	8		物語や詩を読み、登場人物の心情の変化を捉えよう。
11	様々な表現技法について学ぼう①	6		・百人一首やスピーチを通して、様々な表現技法について理解を深める。
12	様々な表現技法について学ぼう②	5		百人一首やディベートを通して、様々な表現技法について理解を深める。
1	様々な表現技法について学ぼう③	4		百人一首やショウ&テルを通して、様々な表現技法について理解を深める。
2				
3		60		
備考				